



全国草原再生ネットワーク

ニュースレター vol. 23 (Jul. 2015)



茶畑が広がり周辺には茶草場のススキが風にそよぐ。後ろには富士山がたたずむ。(静岡県掛川市／白川勝信氏撮影)

第9回理事会・総会が開催されました

6月27日（土）、全国草原再生ネットワーク（以下：ネットワークと略）第9回理事会および総会を開催しました。これは、昨年の第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇（以下：阿蘇サミット・シンポと略）の事例報告にあった「茶草場農法」を見たいとの要望があり、静岡県掛川市での開催となったものです。昨年同様、理事会と総会の同時進行となりましたが、たっぷり時間をかけ、事業の一つ一つについて話し合い、昨年の検証とそれを踏まえた今年度の事業の進め方について、論議を深めることができました。

特にネットワークの骨子でもある草原データベース整備事業については、アンケート対象とした269箇所以外に把握しきれていない草原を掘り起こすこと、もっと詳細な情報を収集すること、その両方を同時に進めていくなど沢山の提案がありました。草原に関する最近の文献の数の多さや、ネットワークのHPへの訪問者が一年間に約1万2千人に上ようになったことなどから、研究者をはじめとする多くの方々に興味を持っていただいていることがわかります。昨年、（公財）日本自然保護協会から教育・普及部門で日本自然保護大賞を頂いたことはそれを物語っていると思います。

これからは10年前に草原再生ネットワーク準備会を創設した時とは役割が違ってくるので、積極的に草原再生・保全の必要性と生物多様性について啓発普及していくべきとの意見も出されました。昨年の阿蘇サミット・シンポで宣言された草原100選、草原の経済価値の評価、自治体ネットワークの構築という課題は、今までのサミット開催地と共に当ネ



高橋会長のあいさつ

ットワークが主体的に取り組んで行かなければなりません。そのためには行政に強く働きかけ、行政と連帯できる組織づくりも必須です。

その一方でパラグライダーや乗馬など、私たちが持っていない切り口で草原を楽しんでいる人々をも巻き込んでいきたいものです。草原に人を近づけるツール、例えば草原カードの作成も有効になります。いろいろな方法で集めた情報をいかに魅力的に見せるかの手腕も磨かなければなりません。これらの工夫をして沢山のファン層を広げたいうで人材を集めること。それが草原データベースの充実と連動するものであるとの結論に達しました。

そこで、今年度は組織強化・会員増強・草原情報の入手、そして草原の活用を図るために今までの事業の上に「会員拡大事業」を別立てにすることになりました。会員特典を充実させ、各県毎の「草原に関わる人と情報のピックアップ」いわば、「会員に



理事会・総会の様子



出席者による集合写真

よる会員と草原勧誘」を皆さんにお願いすることになります。他にも会員・団体による草原リレーや団体リレーなど執筆活動の充実も話し合われました。

最後に来年の全国草原再生ネットワーク総会 10周年には記念シンポジウムを東京で開催することを決め、閉会いたしました。

エクスカージョン参加報告

(白川勝信：広島県在住・ネットワーク理事)

全国草原再生ネットワークの第9回総会に併せ、静岡県掛川市の茶草場を見学しました。新幹線の車窓から見える大きな「茶」の文字があるのが掛川市です。「茶草場（ちゃぐさば）」とは、茶畑に敷く草を集めるための草地のことです。この辺りの基盤地質は堆積岩で、有機質が混ざらない土は、乾燥すると硬く締まります。野草を刈って、茶畑に敷き詰めることで、土壤環境を改善し、水保ちを良くするとともに、無機栄養分のゆるやかな供給や、雑草の抑制など、様々な効果が期待されます。掛川でお茶栽培が始まったのは江戸時代の末期だそうですが、茶草の利用はかなり早い時期から始まり、枯れ草となる11月頃からは、草集めがお茶農家の大事な作業だそうです。今回は、植生の面から茶草場の研究をされている楠本さんと、地元のお茶栽培農家の杉本さんに案内していただきました。

茶文字を見晴らせる広場で、全員が杉本さんのワゴン車に乗り込み、茶園の中を縫うように付けられた道路に入っていきます。後で聞くと、農家の方でもボーッとしていると迷うこともあるそうです。杉本さんは慣れてるのでスイスイと進みますが、アップダウンもあり、かなり細い道です。茶は、水田と違って水を張る必用が無いので、土地を改変しておらず、もとの地形がそのまま残っているようでした。茶の圃場と茶草場は必ずしも隣接しているわけではなく、やや平坦で作業がしやすい所は茶園に、比較的急な斜面は茶草場に、それぞれ利用されているようです。その他にも、植林がされた場所や、広葉樹の二次林になっている場所もありました。

茶草場の多くは地域の共有地ですが、各農家可以利用できる場所は、細かく決まっているそうです。興味深いのは、草刈りができる土地の割り振りは明文化されているわけではなく、茶園主から後継者へと、口伝でで傳承されていくそうです。このような所有・利用形態が成り立っていることは、掛川での茶の栽培が、伝統のもとに成り立っていることの表れでもあります。実際、後継者が決まっていない農家は、わずか1割程度だそうです。

茶草場の植生は、ネザサが優占するところや、ス



茶草場の様子

スキが優占するところなど、いくつかのタイプがありました。また、崩壊地に地下水がしみ出て、湿地を作っているところもありました。火入れこそ無いものの、定期的な刈取りと、多様な土壤水分環境により、300種を越える植物が確認されています。エクスカージョン当日は、ササユリが終わったところで、ノハナショウブ、ワレモコウ、ユウスゲ、オカトラノオ、カキラン、などを見ることができました。また静岡県のみ分布し、環境省の絶滅危惧II類に選定されているフジタイゲキも、花を付けていました。

現地の見学に合わせ、茶農家さんが出しているお店「いっぷく庵」に立ち寄りしました。世界農業遺産に指定された「茶草場農法」で栽培された茶が売られています。静岡県では、茶草場を使っている農家が、茶のパッケージに貼ることのできるシールを作り、運用しています。このシールは、茶草場の面積によるものであり、茶草場の種多様性や、茶の美味



杉本さんによる説明



保管されたススキ

しさを補償するものではないので、茶農家さんが取り組みやすく、結果的には草地を増やす働きをしているそうです。色々な話を聞きましたが、世界農業遺産の制度を、この地域の人達は上手に受け入れ、活用しているように感じました。



エクスカージョン参加者の集合写真

限られた時間でしたが、ご案内いただいた楠本さんと杉本さんのおかげで、ポイントを押さえたとても良いエクスカージョンになりました。茶草場や茶栽培に触れたことで、お茶を飲む時間を大事にしよう、と思うようになったことが収穫でした。

各地からの報告

ブルーシートで草の持ち出し

(横川昌史：京都府在住)

あちこちの草原で草刈りが行われていますが、刈った後の草を持ち出す作業の方が実は大変だったりします。特に広い草原で草刈りをした後に、草を持ち出す作業はとても疲れるものです。この大変な草の持ち出し作業、ブルーシートを使うとかなり楽になるそうです。実際に、阿蘇で草刈りをしたときに試してみましたので、雑感を報告しておきます。

2014年10月某日、熊本県の阿蘇のとある場所、雑木林を伐採して草原再生を試みている30m×15mぐらいの斜面の草原で草刈りをしました(写真1)。ブルーシートに刈った草を積んで(写真2)、引っ張って下ろしてみました。ブルーシートは草の上をよく滑るので、それほぼ力をかけなくても草を下ろすことができました。二人でブルーシートを引っ張ると、より効率が良かったです。今回、草刈りをした場所は狭い斜面でしたが、もっと広い斜面で草を下ろす場合はとても便利そうです。また、ブルーシートを使った作業は人数が多いほど、効率が良くなるようです。

一方で、使いながらいくつか弱点もわかりました。作業した場所は、雑木林を伐採した場所なので、木の切株にブルーシートが引っかかり、作業がしづら



写真1 草刈りの様子



写真2 ブルーシートを用いた草集め

かったです。最終的には、切株に引っかかったブルーシートが破れてしまいました。切株がある場所、露岩や転石の多い場所、調査用の杭を打ってある場所など突起物がある場所では注意が必要です。また、今回ではわからなかったことですが、平坦な場所でブルーシートを使って草を持ち出した場合、どれぐらいの労力がかかるのか気になりました。斜面を滑らせると楽なのは確かですが、平坦地で草をのせたブルーシートを引っ張るのがどれぐらい大変なのか、検証が必要です。これについては、大人数で作業すれば気にならないかもしれません。もう一つ気になったのが、種子の散布についてです。草刈りや草の持ち出しのときに植物の種子が散布されているのではないかと、思っているのですが、ブルーシートを使った場合、周りに種子は散布されず、ブルーシートにのったまま持ち出されてしまいます。これが、草原の植物にどれぐらい影響があるのかは、まったくわからないのですが、ちょっと気になっています。どなたか、興味ある方は実験してみてください。

全体として、斜面の草原、特に面積が広い場所では、ブルーシートを使った草の持ち出しは、とても効率が良さそうです。私は、今まで大きな鎌（写真3）を使って、草を丸く束ねながら下ろしていました。これもなかなか効率的です。今回もブルーシートが破れた後は、いつも通り、大鎌を使って草を下ろしました。



写真3 大鎌とブルーシート

茅葺きフォーラム 芸州茅葺きの技と風景

(横田潤一郎：大阪府在住・ネットワーク理事)

2015年6月6日～7日にかけて、当ネットワークと相互会員でもある一般社団法人茅葺き文化協会主催の茅葺きフォーラムが、東広島市で開催されました。今回、開催の地となった東広島市は、かつて茅葺き職人集団が発達した土地柄であり、その技は藝州流と呼ばれ、広く九州から近畿地方まで、その影響が見られるそうです。

6日のフォーラムでは基調講演として、山口大学坪郷先生から、藝州流を中心とした中国地方の茅葺き屋根の様式についてご講演いただきました。中国地方は、広島を中心とした屋根職人の影響が強い土地柄ですが、瀬戸内海側から日本海側に向かって、気候の変化が著しい地域でもあります。そのため、積雪量や風の強さにあわせて、屋根の様式も変わっていくそうです。

近畿大学の市川先生からは、東広島市に残る茅葺き屋根に関して、詳細な調査結果の報告がありました。東広島には2002年時点で82戸の茅葺き民家が残っていたとのことですが、その後、トタンに被覆されたり解体されるなどして、2010年には48戸を残すのみとのことでした。やはり屋根の葺き替えに大きな負担がかかるようになっており、コストの増加は、草原の保存と同様、茅葺き屋根の保存に対す

る課題の1つとなっています。

この他の課題としては、技術の継承が挙げられると思います。今回のフォーラムでは、「藝州流を語る」というテーマで、82歳にして現役の藝州流屋根屋である石井さんを中心に、広島出身の茅葺き職人の沖元さん、西中国茅葺き民家保存研究会の上田さんの3名による、トークセッションもありました。藝州流ならではの、カマバリといった独特の道具の説明や、箱棟といった様式のお話も頂きました。

7日は、フォーラムでお話いただいた石井さん、沖元さん、上田さんのご説明のもと、東広島市内の茅葺き建築の現地見学会がありました。全国から集



フォーラムの様子

まった茅葺き職人さんが、素材や意匠について議論されていた他、その保全や活用方法についても盛んに質疑されていました。個人宅として使われている民家の他、地元の活動拠点やお食事処に使われている民家などがあり、古民家保全活用プロジェクトが進行中の民家もありました。

さらに、茅葺きの保全には、茅場としての草原は必要不可欠です。瀬戸内地方には現在、まとまった茅場があまりなく、北広島でも茅の確保は大変とのこと。数年前から取り組んでいる、休耕田を活用した茅場再生は、当初セイタカアワダチソウの繁茂などが見られたようですが、刈り取りを継続してきたところ、近年はカヤが取れるようになってきたということです。

ところで、茅葺きフォーラムは、茅葺き文化協会が発足した 2010 年から毎年開催されており、今年が 6 回目の開催でした。会場には、茅葺き民家の所有者、茅葺き職人さん、建築関係の方、または茅葺き屋根のファンなど、全国から大勢詰めかけており、



茅葺きの民家

とても盛況でした。草原の保全と利用を考える上で、茅葺き屋根は非常にはっきりしたテーマを与えてくれます。このテーマに対して、様々な立場の方が議論しあうことで、いろんなアイデアが生まれるのだと、今回改めて学ばせていただきました。

茅葺きフォーラムは、毎年 6 月上旬に開催されるとのこと。来年は、長野の戸隠での開催が予定されています。ぜひネットワークのみなさんも、一度ご参加ください。

草原をめぐる動き (2015 年 7 月～10 月)

7/5 草原の復元作業 1 (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台エコミュージアム)

7/11-12 草花着花調査と防火帯刈り払いに挑戦 (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

7/19 秋吉台お花畑プロジェクト 1 (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台エコミュージアム)

8/1 千町原 夏の保全活動 (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: NPO 法人西中国山地自然史研究会)

8/2, 9/6 マルハナバチ調べ隊 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)

8/23 乙女高原を歩こう (場所: 山梨県山梨市牧丘町

乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)

9/13 ススキ刈り取り実験 (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)

9/27 草原の復元作業 2 ～セイタカアワダチソウ駆除作業～ (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台エコミュージアム)

10/11 秋吉台お花畑プロジェクト 2 (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台エコミュージアム)

10/24-25 茅刈り体験 (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)

※上記以外にもホームページで随時公開しています。

全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol. 23 2015 年 7 月号

全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-84-0262

【編集後記】総会、理事会へ参加されたみなさま、お疲れ様でした。エクスカージョンもとても有意義なものだったようです。総会では、ネットワークの活性化が議論されたようです。来年は 10 回目の記念総会になります。引き続き、みなさまのご協力をお願いいたします。